

☆☆総合診療専門研修プログラム 研修目標及び研修の場		☆☆総合診療専門研修プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場 推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場											
		総合診療専門研修Ⅰ (診療所/中小病院)		総合診療専門研修Ⅱ (病院総合診療部門)		内科		小児科		救急科		他の領域別研修	
I. 一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な診察及び検査・治療手技 以下に示す検査・治療手技のうち、※印の項目は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。		設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨
(ア) 身体診察													
※①小児の一般的身体診察及び乳幼児の発達スクリーニング診察を実施できる。		◎	◎	◎				◎	◎				
※②成人患者への身体診察(直腸、前立腺、陰茎、精巣、鼠径、乳房、筋骨格系、神経系、皮膚を含む)を実施できる		◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	○
※③高齢患者への高齢者機能評価を目的とした身体診察(歩行機能、転倒・骨折リスク評価など)や認知機能検査(HDS-R、MMSEなど)を実施できる。		◎	◎	◎	◎	○	○						
※④耳鏡・鼻鏡・眼底鏡による診察を実施できる。		◎	◎	◎	◎			○		○		○	○
※⑤死亡診断を実施し、死亡診断書を作成できる。		◎	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
⑥死体検案を警察担当者とともに実施し、死体検案書を作成できる。		◎	◎	○	○	○				◎	◎		
(イ) 実施すべき手技													
※①各種の採血法(静脈血・動脈血)、簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※②採尿法(導尿法を含む)		◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		
※③注射法(皮内・皮下・筋肉・静脈内・点滴・成人及び小児静脈確保法、中心静脈確保法)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※④穿刺法(腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む)		○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	
(ウ) 検査の適応の判断と結果の解釈が必要な検査													
※①単純X線検査(胸部・腹部・KUB・骨格系を中心に)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	
※②心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査		◎	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
※③超音波検査(腹部・表在・心臓、下肢静脈)		◎	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
※④生体標本(喀痰、尿、皮膚等)に対する顕微鏡的診断		◎	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
※⑤呼吸機能検査		◎	◎	◎	◎	◎	○						
※⑥オージオメトリーによる聴力評価及び視力検査表による視力評価		◎	◎									○	○
⑦消化管内視鏡(上部)		○	○	○	○	◎	◎						
⑧消化管内視鏡(下部)		○	○	○	○	◎	◎						
⑨造影検査(胃透視、注腸透視、DIP)		○	○	○	○	◎	◎						
※⑩頭・頸・胸部単純CT、腹部単純・造影CT				◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
⑪頭部MRI/MRA				◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
(エ) 救急処置													
※①新生児、幼児、小児の心肺蘇生法(PALS)		○	○		○		○	◎	◎	◎	◎		
※②成人心肺蘇生法(ICLSまたはACLS)または内科救急・ICLS講習会(JMECC)		○	○	○	○	○	◎			◎	◎		
※③外傷救急(JATEC)										◎	◎		
(オ) 薬物治療													
※①使用頻度の多い薬剤の副作用・相互作用・形状・薬価・保険適応を理解して処方することができる。		◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○		
※②適切な処方箋を記載し発行できる。		◎	◎	◎	◎	○	◎						
※③処方、調剤方法の工夫ができる。		◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○		
※④調剤薬局との連携ができる。		◎	◎	○	○				○				
⑤麻薬管理ができる。		◎	◎	◎	◎	◎	○						
(カ) 治療法													
※①簡単な切開・異物摘出・ドレナージ		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※②止血・縫合法及び閉鎖療法		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※③簡単な脱臼の整復		◎	◎	○	○				○	◎	◎	○	○
※④局所麻酔(手指のブロック注射を含む)		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※⑤トリガーポイント注射		◎	◎		○							○	○
※⑥関節注射(膝関節・肩関節等)		◎	◎	○	○							○	○
※⑦静脈ルート確保および輸液管理(IVHを含む)		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎		
※⑧経鼻胃管及びイレウス管の挿入と管理		○	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
※⑨胃瘻カテーテルの交換と管理		◎	◎	◎	○	◎	○						
※⑩導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換		◎	◎	◎	◎	○	○			○	○	○	
※⑪褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン		◎	◎	◎	◎							○	○
※⑫在宅酸素療法の導入と管理		◎	◎	◎	○	○	○						
※⑬人工呼吸器の導入と管理		○	○	◎	○	◎	○				◎		
⑭輸血法(血液型・交差適合試験の判定や在宅輸血のガイドラインを含む)		○	○	○	○	◎	○						
⑮各種ブロック注射(仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等)			○		○							○	○
⑯小手術(局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法)		○	○	○	○					◎	◎	○	

※⑰包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法	○	◎	○	○					◎	◎	○	○
⑱穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）	○	○	◎	◎	◎	◎		◎	○	◎		
※⑲鼻出血の一時的止血	○	◎							◎	◎	○	○
※⑳耳垢除去、外耳道異物除去	○	◎					◎	◎			○	○
㉑咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）	○	○							◎	◎	○	◎
㉒睫毛抜去	○	◎									◎	◎
Ⅱ. 一般的な症候への適切な対応と問題解決 以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応（他の専門医へのコンサルテーションを含む）を適切に実施できる。	設定	推奨										
ショック	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
急性中毒	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
意識障害	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
疲労・全身倦怠感	◎	◎	◎	◎	○	○						
心肺停止	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
呼吸困難	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
身体機能の低下	◎	◎	◎	○								
不眠	◎	◎	◎	○							○	
食欲不振	◎	◎	◎	○	○	○						
体重減少・るいそう	◎	◎	◎	○	○	○						
体重増加・肥満	◎	◎	◎	◎	○	○						
浮腫	◎	◎	◎	○	○	○						
リンパ節腫脹	◎	◎	◎	○	○	○	○	○				
発疹	◎	◎	◎	○			○	○			○	○
黄疸	○	○	○	○	◎	◎						
発熱	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
認知能の障害	◎	◎	◎	◎	○	○					○	
頭痛	◎	◎	◎	◎	○	○			○	◎	◎	
めまい	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎	○	
失神	○	○	◎	○	○	○			◎	◎		
言語障害	○	○	◎	◎								
けいれん発作	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎		
視力障害・視野狭窄	○	◎							○	○	◎	○
目の充血	◎	◎							○		○	○
聴力障害・耳痛	○	◎					○	○			◎	○
鼻漏・鼻閉	○	◎					○	○			○	○
鼻出血	○	◎							◎	◎	○	○
さ声	◎	◎									○	○
胸痛	◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	◎		
動悸	◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	◎		
咳・痰	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		
咽頭痛	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		
誤嚥	◎	◎	◎	○	◎	○			◎	◎		○
誤飲	◎	○	○		○				◎	◎		
嚥下困難	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		○
吐血・下血	◎	○	◎	○	◎	○			◎	◎		
嘔気・嘔吐	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		
胸やけ	◎	◎	◎	◎	◎	○			○	○		
腹痛	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		
便通異常	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○				
肛門・会陰部痛	◎	◎	○	○	○	○						
熱傷	◎	◎	○	○					○	◎	◎	○
外傷	◎	◎							◎	◎	○	◎
褥瘡	◎	◎	○	○							○	○
背部痛	◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
腰痛	◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
関節痛	◎	◎	◎	○							○	○
歩行障害	◎	◎	◎	○							○	○
四肢のしびれ	◎	◎	◎	○							○	○
肉眼的血尿	◎	◎	◎	○							○	○
排尿障害（尿失禁・排尿困難）	◎	◎	◎	○							○	○
乏尿・尿閉	◎	◎	◎	○	○				○	○	◎	○
多尿	◎	◎	◎	○	◎						○	○
不安	◎	◎	○	○	○	○					○	○
気分の障害（うつ）	◎	◎	○	○							○	○
興奮									◎	◎	○	○
女性特有の訴え・症状	◎	◎	○								○	○
妊婦の訴え・症状	○	○	○	○	○	○			○	○	◎	◎
成長・発達の障害		○					◎	◎				
Ⅲ 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、（ ）内は主たる疾患であるが、例示である。 ※印の疾患・病態群は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。												
(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患												
※[1]貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○		
[2]白血病			◎		◎	◎						
[3]悪性リンパ腫			○		◎	◎						
[4]出血傾向・紫斑病	○		◎	○	○	◎	○				○	
(2) 神経系疾患												
※[1]脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎		◎
※[2]脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）		○							◎	◎		◎
※[3]変性疾患（パーキンソン病）	○	○	◎	○	○	◎						
※[4]脳炎・髄膜炎			◎	○	○	◎	○	○	◎	◎		
※[5]一次性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○				
(3) 皮膚系疾患												
※[1]湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性皮膚炎）	◎	◎	○	○					◎	◎	○	◎
※[2]蕁麻疹	◎	◎							○	◎	○	◎
※[3]薬疹	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○	◎
※[4]皮膚感染症（伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟属腫、疥癬）	◎	◎	○	○					◎	◎	○	◎
(4) 運動器（筋骨格）系疾患												
※[1]骨折（脊椎圧迫骨折、大腿骨頭部骨折、橈骨骨折）	○	○							◎	◎	○	◎
※[2]関節・靭帯の損傷及び障害（変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎）	○	○							◎	◎	○	◎
※[3]骨粗鬆症	◎	◎	○	○	○	○					○	◎

※[4] 脊柱障害（腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）	◎	◎								◎	○	○	◎
(5) 循環器系疾患													
※[1] 心不全	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎		
※[2] 狭心症、心筋梗塞	○	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
[3] 心筋症									○		○		
※[4] 不整脈（心房細動、心房ブロック）	○	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
[5] 弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）	○	○	○	○	○	○	○		○				
※[6] 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）	○	○	○	○	○	○	○				○		
※[7] 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
※[8] 高血圧症（本態性、二次性）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
(6) 呼吸器系疾患													
※[1] 呼吸不全（在宅酸素療法含む）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		
※[2] 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※[3] 閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、塵肺）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
[4] 肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞）			○	○	◎	◎	◎			◎	◎		
※[5] 異常呼吸（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	◎	◎		
※[6] 胸膜・縦隔・横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）	○	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
[7] 肺癌	○	○	○	○	○	○	○						
(7) 消化器系疾患													
※[1] 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎、逆流性食道炎）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	○		
※[2] 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻、過敏性腸症候群、憩室炎、大腸癌）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○		
※[3] 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）	○	○	○	○	○	○	○			○			
※[4] 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
※[5] 膵臓疾患（急性・慢性膵炎）	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
※[6] 横隔膜・腹壁・腹膜疾患（腹膜炎、急性腹症、鼠径ヘルニア）	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎		
(8) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）疾患													
※[1] 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）	○	○	◎	○	◎	◎	◎			○	○		
[2] 原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）			◎	○	◎	◎	◎	○	○		○		
※[3] 全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
※[4] 泌尿器科の腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症、過活動膀胱）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	◎
(9) 妊娠分娩と生殖系疾患													
[1] 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、産褥）												◎	◎
※[2] 妊婦・授乳婦・褥婦のケア（妊婦・授乳婦への投薬、乳腺炎）		◎										◎	◎
※[3] 女性生殖器及びその関連疾患（月経異常《無月経を含む》、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍）	◎	◎										◎	◎
※[4] 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害）	◎	◎	◎	○								◎	◎
(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患													
[1] 視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）			◎			○	◎						
※[2] 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
[3] 副腎不全			◎			○	◎						
※[4] 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
※[5] 脂質異常症	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
※[6] 蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
(11) 眼・視覚系疾患													
[1] 屈折異常（近視、遠視、乱視）		○										◎	◎
※[2] 角結膜炎（アレルギー性結膜炎）	◎	◎	○									◎	◎
[3] 白内障	○	◎										◎	◎
[4] 緑内障		○										◎	◎
[5] 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化												◎	◎
(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患													
※[1] 中耳炎	○	◎						◎	◎			◎	◎
※[2] 急性・慢性副鼻腔炎	◎	◎	○	○	○	○	○					◎	◎
※[3] アレルギー性鼻炎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎			◎	◎
※[4] 咽頭炎（扁桃炎、扁桃周囲膿瘍）	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎			◎	◎
[5] 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物	○	○						○	○	◎	◎	◎	◎
(13) 精神・神経系疾患													
[1] 症状精神病	○	○	○	○						○	◎	◎	◎
※[2] 認知症（アルツハイマー型、血管型）	◎	◎	◎	◎	○			○				◎	◎
※[3] 依存症（アルコール依存、ニコチン依存）	◎	◎	◎	○	○							◎	◎
※[4] うつ病	◎	◎	○									◎	◎
[5] 統合失調症		○										◎	◎
※[6] 不安障害（パニック障害）	◎	◎										◎	◎
※[7] 身体症状症（身体表現性障害）、適応障害	○	◎										◎	◎
※[8] 不眠症	◎	◎	◎	○	○							◎	◎
(14) 感染症													
※[1] ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎、HIV）	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎				
※[2] 細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎			
[3] 結核							◎	◎					
[4] 真菌感染症	○	◎	○				◎		○				◎
[5] 性感染症		○										◎	◎
[6] 寄生虫疾患							◎	○	○				
(15) 免疫・アレルギー疾患													
※[1] 膠原病とその合併症（関節リウマチ、SLE、リウマチ性多発筋痛症、シェーグレン症候群）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
[2] アレルギー疾患	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎				
※[3] アナフィラキシー	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎		
(16) 物理・化学的因子による疾患													
※[1] 中毒（アルコール、薬物）	○		◎	◎	◎	◎				◎	◎		
[2] 環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）	○		○	◎	○	◎				◎	◎		
※[3] 熱傷	○	◎								◎	◎	○	◎
(17) 小児疾患													
[1] 小児けいれん性疾患								◎	◎	◎	◎		
※[2] 小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ、RS、ロタ）	○	◎						◎	◎				
※[3] 小児細菌感染症	○	◎						◎	◎				
※[4] 小児喘息	○	◎						◎	◎	○	◎		
[5] 先天性心疾患								◎	◎				
[6] 発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ダウン症、精神遅滞）	○	○						◎	◎	◎	◎	○	
[7] 小児虐待の評価	○	○						◎	◎	○	◎		
(18) 加齢と老化													
※[1] 高齢者総合機能評価	◎	◎	◎	◎									
※[2] 老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）	◎	◎	◎	◎									
(19) 悪性腫瘍													
※[1] 維持治療期の悪性腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎
※[2] 緩和ケア	◎	◎	◎	◎	◎	◎						○	
IV 医療・介護の連携活動													
以下に示す診療を適切に実施することができる。													
(1) 介護認定審査に必要な主治医意見書の作成	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						

